

## パートナーシップ宣言

### 【出会い】

#### 国立環境研究所×しんせい

特定非営利活動法人しんせい（以下しんせい）は、東日本大震災・原発事故の影響を受け、避難生活が始まった障がい者を支援するため、2011年3月に活動をスタートしました。（当時の団体名JDF被災地障がい者支援センターふくしま）2019年、「原発事故以前のように、また農業がしたい」という障がい者の夢を叶えたく、しんせいは逢瀬町に農園を開きました。原発事故から8年が経過していましたが、避難する障がい者の放射能への不安は根強く、農園の環境を調査するため、三春町にある国立環境研究所（以下研究所）に相談することにしました。このように、原発事故が結んだご縁で、研究所としんせいは出会いました。



#### あさか開成高校×しんせい



ちょうどその頃、世界中を震撼させた「新型コロナウイルス」が急速に広がり、私たちの生活スタイルは大きく変わりました。「コロナ禍でも、高校生らしい経験はできないか」と福島県立あさか開成高校（以下高校）の校長先生が、しんせいを訪ねてこられたのは、2020年の秋でした。「海外や県外との交流や部活動の自粛は、高校生が地域に目を向ける絶好のチャンスかもしれない。」とおっしゃった校長先生の前向きな言葉がとても印象的でした。こうして、コロナ禍が結んだご縁で、

高校としんせいは出会いました。

## 【山の学校のはじまり】

2021年の春、研究所×高校×しんせいの三者は、「山の農園」で環境調査活動などをスタートさせ、その輪にNTT労働組合も加わりました。研究者、学生、企業人、障がい者がマスクを外し、大声で笑い、心行くまで語り合う時間は、とても特別に感じました。立場や所属が異なる相手の話に真摯に耳を傾け、答えは1つではないことをみんなで



学びました。私たちは、この学びの場を「山の学校」と名付け、「この学校は、誰もが先生であり、誰もが生徒である」ことをモットーとしました。原発事故とコロナ禍という大きな災害で、私たちは「新しい協働」を手にしましたが、立場や所属の垣根を越えるには、災害級の大きな力が必要だったのかもしれない。

## 【パートナーシップ宣言】

研究所の持つ「知見」、高校生の持つ「未来」、障がい者の「人を繋ぐ力」。三者が力を合わせ、これからも社会的課題へ挑戦していくために協定を結びます。大きな自然災害が繰り返される今、私たちの協働が次の被災地の復興のヒントとなることを心から願いつつ、本日、ここにパートナーシップを宣言します。

